

公民館の図書室は 学びの入口・みんなの本棚

図書室月報

2024年(令和6年)
6月5日 第733号

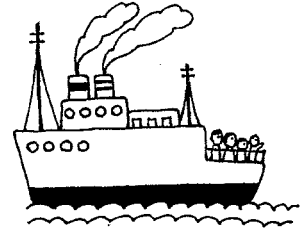
PDF版

国立市中 1-15-1
TEL.042-572-5141
FAX.042-573-0480
国立市公民館

〈2024年1月13日開催 図書室のつどい 参加者の感想〉

のぞみ
小林希 著『旅が教えてくれた人生と
仕事に役立つ100の気づき』の
講座に参加して

猫田 一郎



昨年ようやくコロナによる制限が解除になったものの、仕事が多忙になり、しばらく旅から離れてしまっており、観光地の賑わいの様子や海外からの観光客が増えたニュースを横目に見ながら「そろそろ旅を楽しみたい！」と考えていた。そんな時にこの講座があることを知り参加した。

お話いただいた旅作家の小林希さんは、世界60ヶ国以上を巡った後、日本の島に魅了され、島や船をテーマにした旅を数多く紹介し、島旅アンバサダーや日本旅客船協会の船旅アンバサダーに就任されている方だ。

小林さんの旅のきっかけは、子どものころに行ったフイリピンで見た、貧しい中でも幸せそうに暮らす人々の光景からだそう。モノや食の豊かな日本であっても、心まで幸せなのか、豊かさとは何か、貧困だから心豊かではないのか、そういう偏見のない目から見た世界はどういうものか、そこから始まったという。

その後世界を旅する中で様々な異国の文化に触れられるわけだが、「郷に入ったら郷に従え」で旅をし、その国の人たちと触れ合う中で様々な人たちの幸せに暮らす素敵な生き方を見て、次の旅や人生に活かしていることを大変楽しく聞かせていただいた。

世界を巡ってきた小林さんは日本にも素晴らしい場所があるだろうと日本の島にも興味を持ち、最初に瀬戸内海・塩飽諸島に浮かぶ讃岐広島というかつては北前船が入り大変賑わった島を訪ねたところ、なんと観光客がほとんど居らず宿もない。また少子高齢化による人口減少や空き家の増加、文化の衰退と、いずれ無人島になってしまうのではという島の危機を目の当たりにし、何とかしなければという思いで立ち上がり、世界を見てきた様々な経験から、空き家を島の人たちと共に再生して、

誰でも泊まれるゲストハウスをオープンさせた。こうした活動もメディアで取り上げられると大きな話題となり、島旅を楽しむ観光客が訪れ、レンタサイクルや飲食店なども次々オープンし、活気を取り戻してきたという素晴らしい取り組みも紹介してもらった。

それからも国内の多くの島々を巡る小林さんは、島へ渡る手段のほとんどが船であることから船にも興味を持たれる。古来より他国との交流は船で行っていたことや、実は船にはひとつひとつ全てに名前が与えられていること、そして船上では出会いや別れのドラマもあるなど、船旅の魅力を紹介しようと船旅アンバサダーとしての活動も行っており、船が初めて水に浮かぶ「支綱切斷」と呼ばれる船の誕生の儀式にも数多く立ち会われているそう。船に命が吹き込まれる瞬間は涙が出るほど感動されるという。ほかに御朱印の船版である「御船印」も手掛け、これをきっかけにお客が増えた船もあるなど、新しい船旅の楽しみ方をお話いただいた。日本の船はとにかく綺麗で乗客もマナーが良く、何より乗員の気遣いが優れていることだとか。きめ細やかな日本人ならではの、である。

今回、小林さんの人生を「旅」がさらに楽しく心豊かにしてゆくお話を聞き、私も心満たされた気分になった。さらに人生を前へ前へと進めてゆくには、想像の失敗に囚われないことや一度決めたことを少し変えてみることで今まで常識だと思っていた考え方が変わると新しい発見ができることなど、心に残る力強いメッセージをたくさん受け取った。

さあ私も旅に出て新しい発見をしてみよう。わくわくが止まらない。

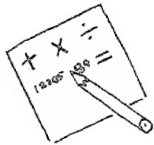
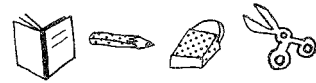
(産業編集センター)

〈2024 年 1 月 27 日開催 図書室のつどい 参加者の感想〉

横山^{あすき}明日希 著

『あなたもハマる！？

数学ひらめきクイズ』を受講して 深見 弘



小学生から高齢者まで幅広い男女が多数集まり盛況な講義でした。

講義中には内容のわかりやすい4つの問いが出て、皆さん楽しく取り組んでいました。

どれも解けそうで解けなく、私は正解にたどり着けませんでした(下記)。

【問1】正方形の折り紙を折って、正三角形を作れ

⇒ 私：『図1』 正三角形は角度が 60 度だから、正方形の対角線で折って $\angle A=45^\circ$ 度。正方形を半分に折り、その頂点と角の対角線で折って $\angle B=63.435^\circ$ 度。 $\angle A$ と $\angle B$ の2等分線は $\angle C=(45+63.435)/2=54.22^\circ$ 度 ⇒ 60 度にならずに give up. ⇒【解き方】辺の長さを等しくとる折り方で正三角形ができることを教わりました。

【問2】6本の缶をロープで結ぶのに1番短いロープで済むのはどれか？『図2』

⇒ 私：面積が同じで周長が最も短い図形は“円”。①は円に近い形なので、①。⇒ 不正解
⇒【解き方】図形および円筒の実物を用いて最短になる図形を教わりました。

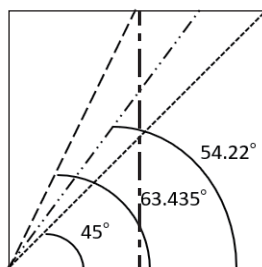
【問3】4月4日が木曜日とすると、10月10日は何曜日か？

⇒ 私：1月と10月の日付の曜日は同じはずだから……、+今年はうるう年だから、曜日が一つ繰り下がり……⇒ 暗算が出来ず give up. ⇒【解き方】同じ曜日になるカレンダー日の数字の法則を教わりました。

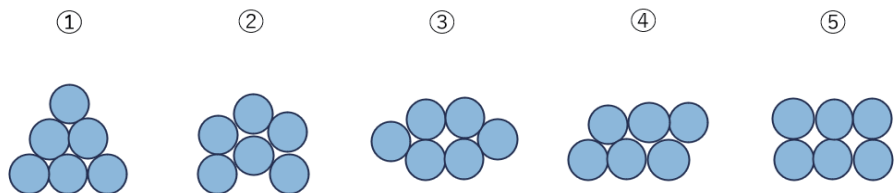
【問4】2桁の数を3乗して“250,047”になる数はいくつか？

⇒ 私：二乗は計算できるが、3乗の暗算はできない ⇒ give up ⇒【解き方】“一の位の数字”と“千の位以上の数字”を『表1』に照らせば求めることができることを教わりました。

『図1』



『図2』



『表1』

N	1	2	3	4	5	6	7	8	9
N ³	1	8	27	64	125	216	343	512	729

講演後、著書に著者のサインをもらいました。

“math 023”と書いてありました。

何のことかと尋ねると“mathematics (数学) お兄さん”を表しているとのことでした。今回数学を学び、類似講座が開講されたらまた参加したいと思いました。

横山明日希著『はまると深い！数学クイズ』(ブルーバックス)、『文系もハマる数学』(青春出版) ほか

くにたちブッククラブ

一たしかにそこにいた「わたし」のことー

ばんどうまさこ じんさい
坂東真砂子『神祭』(角川文庫)

講師 大木 志門 (東海大学・日本近代文学)
とき 6月13日(木)夜7時半～9時半
ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎(572)5141

*年間8回にわたり様々な文学作品を
味わう「くにたちブッククラブ」。
年間予定など、詳しくはホームページを
ご確認ください。



新着図書から

〈総記〉

不完全な司書

青木海青子 (晶文社)

016

めぐる、めくる、めくるめく石川県立図書館の新世界

仙田満 (建築画報社)

016

〈哲学 心理学 宗教〉

一億三千万人のための『歎異抄』

高橋源一郎 (朝日新聞出版)

188

〈歴史〉

基地国家の誕生

南基正 (東京堂出版)

210

つながらるアイヌ考古学

関根達人 (新泉社)

211

検証ナチスは「良いこと」もしたのか？

小野寺拓也 (岩波書店)

234

ロシア奪われた未来 マーシャ・ゲッセン (白水社)

238

古代アメリカ文明

青山和夫 (講談社)

255

母を失うこと サイディヤ・ハートマン (晶文社)

294

〈社会科学〉

スロヴァキアを知るための64章

長與進 (明石書店)

302

世界の取扱説明書

ジャック・アタリ (プレジデント社)

304

シリーズ・中東政治研究の最前線1〜5

中村覚 (ミネルヴァ書房)

312

偽情報と独裁者 マリア・レッサ (河出書房新社)

312

パリの「敵性」日本人たち 藤森晶子 (岩波書店)

334

仕事と江戸時代 戸森麻衣子 (筑摩書房)

366

副業おじさん 若月澤子 (朝日新聞出版)

367

子どもへの性加害

斎藤章佳 (幻冬舎)

367

宗教右派とフェミニズム

山口智美 (青弓社)

367

〈自然科学〉

空想の補助線

前川淳 (みすず書房)

414

面白すぎて時間を忘れる雑草のふしぎ

稲垣栄洋 (三笠書房)

470

昆虫絶滅

オリヴァー・ミルマン (早川書房)

486

コウノトリと暮らすまち

佐竹節夫 (農村漁村文化協会)

488

安楽死を考えるために 盛永審一郎 (丸善出版)

490

聞き取りもうひとつの隔離 福岡安則 (解放出版社)

498

〈工業〉

水辺の小さな自然再生 中川大介 (農山漁村文化協会)

519

これでわかるPFAS汚染 原田浩二 (合同出版)

519

日本の建築

隈研吾 (岩波書店)

521

日本の電機産業はなぜ凋落したのか 桂幹 (集英社)

542

〈産業〉

シチリアの奇跡

島村菜津 (新潮社)

601

農の世界史 マーク・B. タウガー (ミネルヴァ書房)

612

ミミズの農業改革 金子信博 (みすず書房)

613

死んだ動物の体の中で起こっていたこと

中村進一 (ブックマン社)

649

〈芸術〉

手塚治虫語辞典

竹内オサム (誠文堂新光社)

726

〈文学〉

水歌通信

くどうれいん (左右社)

911

続きと始まり

柴崎友香 (集英社)

911

馴染みしらずの物語

滝沢カレン (早川書房)

911

よき時を思う

宮本輝 (集英社)

911

Lの運動靴

キム・スム (アストラハウス)

921

大都会の愛し方

パク・サンヨン (亜紀書房)

921

いちばんの願い

トーン・テレヘン (新潮社)

941

図書室のついで

不登校の女子高生が

日本トップクラスの

同時通訳者になれた理由

お話 田中慶子 (同時通訳者)



著者の田中さんは、高校時代、不登校になった経験があります。進級・卒業に必要な出席日数をかろうじて満たし、高校卒業後、劇団研究員やNPO活動を経て、一念発起してアメリカの大学に入学しました。努力と苦勞を重ねて大学を卒業し、帰国後はNPO法人や外資系通信社などの勤務や同時通訳の勉強をされ、フリーランスの同時通訳者となりました。小学生の頃から集団行動に違和感を覚えながらも学校生活を送っていた田中さんに、小中高生時代の苦悩、英語と格闘した留学生活、同時通訳者になるまでの道のり、同時通訳者として心掛けていることなどをお話いただきます。先の見えない不安や焦りがあっても、目標や希望を持つて生きることの大切さを学ぶ機会にしたいと思います。

〈田中さんの本〉表題作 (KADOKAWA)、『新しい英語力の教室 同時通訳者が教える本当に使える英語術』(インプレス)

とき 7月20日(土) 朝10時〜12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 70名(申込先着順)

申込先 6月18日(火) 朝9時〜

電話またはホームページより申込

公民館 ☎042(572)5141



図書室のこころ

『めいせー! ムシモハンニシ星』

― 刑務所栄養士、今日も受刑者と

クサクないメシ作ります―

講師 黒柳桂子 くろやなぎ (管理栄養士・岡崎医療刑務所)

刑務所の食事は受刑者が作っていることをご存知ですか? たまたま転職で刑務所の栄養士になった黒柳さんは、職場でこのことを告げられたとき驚きました。さらに、受刑者に調理を教えるのは自分であることにも戸惑います。

そんな黒柳さんが、刑務所ならではの決まりや予算の制限の中、調理に不慣れた男性受刑者達と、彼らにとって大きな楽しみである食事を作ることに奮闘します。

同じ食事を作る者同士として受刑者と接する黒柳さんの著書からは、刑務所で過ごす彼らとの自然なやりとりや黒柳さんが感じた素直な印象が伝わってきます。

初めは怖いと思った彼らをこれまでの職歴ではなく、何を食べて育ったのかという食歴に今は興味があるとおっしゃる黒柳さんにお話を伺います。

〈黒柳さんの本〉表題作 (朝日新聞出版)

とき 7月14日(日) 昼2時〜4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 70名(申込先着順)

申込先 6月13日(木)朝9時〜



電話またはホームページより申込

公民館 ☎ 042(572)5141



〈私の本棚から 第3回〉

太宰治著 『右大臣実朝』 うだいじんさねとも

鍛冶勝



鎌倉幕府の三代将軍・源実朝は、そう遠くない将来、自分が殺されることを、いつ、自覚したのでしよう。少年期でしょうか、それとも、青年期に入ってからでしょうか。幼いころより守り育ててくれた家族、血縁が、いずれ自分の命をとりにくる敵、と悟ったときの実朝の真情を思うと、胸がかきむしられます。

十二歳で征夷大將軍 せいいたいしやうぐん についたあとも、母方の北条一族に、政治的なチカラの一切を奪われた、「お飾り」の身の実朝に、味方はありませんでした。

愛する母さえ、たよりになりません。母・北条政子は、天下とりのためなら、手段を選ばぬ北条の要。

二代將軍の兄・頼家を、死地の修善寺に追いやったのも母でした。生きながら死んでいたに等しい実朝。その実朝が、短い命を燃やしてとり組んだのが和歌です。

当時、和歌は、外交上必須のものでした。辺境の東国・鎌倉が、洗練された京の朝廷と渡りあう上で、お粗末な和歌を贈答することは、自らの地位をおとしめることにつながります。貴族社会が終焉し、刀にモノをい寄せた武家政治の13世紀においても、和歌はまだ、力そのものだったのです。

実朝が大役を担います。將軍とは名ばかりの弱者であろうとも、実朝が幕府を代表して、秀歌を産みつけます。実権をにぎる北条に務まる者はおりま

せん。実朝は、おのれの和歌を武器に―渾身の和歌を弓矢にかえて、武門の北条に、ひとりで立ちむかいます。天下に号令をかけるは、実朝ただ一人。この馬の骨ともわからぬ、北条ばらの出る幕ではないことを、和歌で証明したのです。

小説は、実朝の間にいた近習 きんじゅう (家来) が、二十歳でこの世を去った実朝の死後、二十年がすぎたのち、当時をふり返って物語る、回想の形式をとっています。

うららかな春―母(北条政子)と子(実朝)の、他愛のない会話。事実上の最高権力者である、叔父の執権・北条泰時と甥・実朝がかわす、日常のやりとり。一見、おだやかな会話の中に、どれだけの畏が仕掛けられていたことか。

年少のころ実朝のお世話を勤めた語り手はいま、四十一歳の僧侶になっています。当時はわからなかった、母と子、叔父と甥の、なにげない会話にひそめた真の意味を、はじめて理解し、かみしめます。太宰はしかし、直接それとわかる描写はしません。表面上はあくまで、血のかよった家族近親がかわす、日常会話の体裁をくずさず、言葉の裏にひそむ黒い畏 (真の意味) は、本の読み手である読者が―読者みずから探りだす、二重の仕掛けになっています。その二重の仕掛けを高所からあやつり、暗号を本文に埋めこむ、もう一つの太宰のペンの仕掛け。一語一語の裏に秘めた、実朝の深い孤独と絶望を描く、太宰治の三重・歴史ミステリーは、圧巻です。芸術は、解説です。

『右大臣実朝 他一篇』岩波文庫。
または『太宰治全集6』筑摩書房)